2　調査結果の要約

(1) 与那覇湾の地形

与那覇湾は冬期の北東季節風及び夏期の台風の影響が小さい、静穏な広い水面を有している。大部分が干潟を形成していて、しかもそのレベルは高いため、干潮時の湾内における遊泳生物の現存量は少ない。しかし満潮時にはボラ等の群泳が数多くみられた。

(2) 水質と底質

与那覇湾は降雨や陸水等の影響を受けやすく、理化学的に不安定であり、かつ富栄養化され、特に湾奥部がそうである。

(3) 藻場の分布と食用海藻

アジモ場の規模は大きく県内でも有数である。植物生育現存量は湾内より湾外に多く、オキナワモズクも湾外に多産し、アジモの分布域と重なっている。またクビレヅタは湾内の水路の周辺のみに分布する。

(4) プランクトン

動物プランクトンでは、Copepoda の Acartia sp とOithona sp が多く、湾内ではフジツボ、カニ類、エビ類等の幼生が多い。出現時期では４～１０月に多く、湾内と湾外では湾内の方が多い。また当湾内はエビ類、カニ類幼生の生育場としての役割が大である。

(5) 卵　稚　仔

隣接海域を含めた当該湾は稚仔魚に対する成育場所としての役割が大きく、また産卵場ともなっている。年間最多出現種は、稚仔魚でトウゴロイワシ科、卵ではブダイ科である。

(6) 漁　獲　物

周年多獲される有用魚はアイゴを筆頭に以下フエフキダイ類、ヒメジ類、アジ類、ニザダイ類、他にアオリイカ、ガザミ類である。また湾内で魚獲される主要種は、アイゴ類、ボラ類、サヨリ類、クロダイ類、アオリイカ、ガザミ類である。

(7) 底生生物

湾奥部の生物相は貧弱で、湾中央部と口部は豊富である。全体としての当該水域は他の海域（中城湾、金城湾、羽地湾等）に比較して曳網単位面積当りの小型生物相は豊富であり、"餌料環境"及び"かくれば"として重要である。

(8) 有用貝類

松原地先の干潟にクチベニツキガイとウラキツキガイが多産し、規模は３００ha、生息密度200 g/m^2、総資源量６００トンと試算された。

以上の調査結果から、与那覇湾漁場の特性について、次項の総括に記すとおりに結論された。